日系アメリカ人について

髙橋 弦己 （高校２年生）

私たちはこのトーランス派遣の３日目に Japanese American National Museum（全米日系人博物館）を訪れた。そこではガイドのタミさんから日系アメリカ人が差別されてきた歴史などを学んだが、それは私に強い衝撃を与えるものだった。

日本人が渡米したきっかけは 1868 年(明治元年)に砂糖きび農業のために沖縄からハワイに 150 人の労働者が移住したことだった。そのころは日本が不況で食べるものがなく、ハワイで働くしか選択肢がなかったのだが、一日朝から晩までの肉体労働なのにもかかわらず低賃金だったそうだ。ここでタミさんは「ハワイは猛暑だったのに働く時は全身長袖長ズボンだったのはなんでだと思う？　理由は３つあります。」と私たちに質問した。まず私は「日焼け防止」だと一つ思いついた。しかし他の理由が思いつかなかったが、ヒントもあり他の人が「虫防止」「砂糖きびは葉が鋭く怪我をしやすいから」と答えを出してくれた。猛暑のハワイで、一日中長袖長ズボンで働いていたと考えると、相当辛いものなのだと感じて心が痛んだ。

また、この日の話で最も衝撃を受けたのは第二次世界大戦時期（1937 年～1945 年）についてのことだった。真珠湾攻撃のあと、在米の日系人はアメリカ人であるのにもかかわらず日本軍に味方していると疑われ、10 万人以上が強制収容所に送られた。強制収容所と聞くと「アウシュビッツ強制収容所」が最初に思い浮かぶ人が多いと思われるが、タミさんはこの日系人のための収容所は日系アメリカ人を日本に近いアメリカ西岸から遠ざけることが目的であり、殺すためのナチス政府の強制収容所とは大違いだから絶対に間違えないでくださいと話していた。それでもなお、この収容所での生活はとても厳しいもので、もちろん建物の中にプライベートな空間などは存在せず、立地も夜は寒く昼は暑いような人が住む場所ではない砂漠地帯などに建てられた。実際にこの博物館には当時使われていた収容所の一部が残っており（写真）、バラバラの木材で雑に作られたひどい建物だったことが読み取れる。

現在では、ロサンゼルスは日系アメリカ人が 6 万 5000 人とアメリカで最も多い街になっており、やはり自分で行った感想としても顔つきが日本人で英語を話す人をよく見かけた。しかし個人的な印象としてはこのプログラムでは黒人をあまり見なかったように感じた。他の州や都市では日系人が少なかったり、黒人が多く住んでいる地域もあり、もしそのような場所に行った場合はまた今回の印象とは異なるものが得られると思うので、ぜひまたアメリカに行ってみたいと強く思った。今回のこのトーランス派遣ではただの観光では得ることのできない素晴らしい体験をすることができ、また一生の友達も作ることができた。本当にこの経験で自分の将来の可能性を広げられたと思う。